

研究ノート

漁家民泊の手洗いによる衛生管理の実態

A survey on hygiene management: hand-washing by members of fishing households offering guest stays

笹田 怜子*1, 千葉 啓子*2

Reiko SASADA, Keiko CHIBA

Keywords: fishery house accommodation, hygienic management, hand-washing

漁家民泊, 衛生管理, 手洗い

1. はじめに

1-1. 研究の背景

1) 民泊事業の実態

近年、マンションなどを活用した都市型民泊や田舎での体験型民泊が定着してきた¹⁾。体験型民泊は「グリーンツーリズム」にみられる、農山村において、自然・文化・人との交流を楽しむ滞在型の旅のスタイル（以下、農家民泊）で農林水産省が進めるプロジェクト²⁾でもあり、全国的に展開されている。岩手県では東日本大震災以後の取り組みとして、沿岸漁家による民泊事業が始められている（以下、漁家民泊）。農家民泊や漁家民泊では、個別の家庭ごとではなく、各都道府県に届け出をした管理団体が民泊をまとめている場合が多く、岩手県では13団体が登録している（平成27年4月現在）³⁾。本研究の対象地域である岩手県陸前高田市では、一般社団法人マルゴト陸前高田（およびNPO法人SET）⁴⁾⁵⁾が管理団体となり、中学・高校生の修学旅行を主とした漁家民泊を2016年から始めている。とくに同市広田町においては100軒以上の家庭が、登録を行い、関東や関西からの修学旅行生を受け入れており、年々利用者数が増加し、今後ますますの発展が期待される（表1）。

表1 広田町民泊の実績⁵⁾ (2018年11月)

	修学旅行 受入れ件数	利用 団体数	個人 民泊件数	延べ 人数
2016年	9			272
2017年	9	7		726
2018年	6	17	3	803

2) 民泊の衛生管理の現状

住宅宿泊事業法（民泊新法）⁶⁾に基づいた民泊運営の際、食事を提供する場合は、食品衛生法⁷⁾に準じた届け出が必要となる。一方、農家民泊や漁家民泊では都道府県や市町村に登録した管理団体が窓口となり、行政で定められた指針⁸⁾に従って各家庭への管理、指導を実施し

ている。そのため、個別の家庭に向けた法規制などは特になく、防火対策や食中毒などの安全面への不安がないとは言いきれないのが現状である。岩手県では、管理団体が登録家庭を対象とした安全講習会を年1回受けてもらうのが条件となっているが、緊急時対応などの説明が中心となるため、食事提供に関する具体的な衛生管理についての説明は少ない。加えて対象地域では、海産物や農産物資源が豊かであり、それらを活かした食事も民泊の売りとなるが、海洋環境下ならではのリスク、例えば腸炎ビブリオやノロウイルス等の食中毒への健康リスクは他の地域より高く、民泊事業者はより注意を払うべきであり、実際に不安の声も聞かれている。

3) 民泊とHACCPシステム

先ごろ食品衛生法改正⁹⁾により、Hazard Analysis and Critical Control Point（以下HACCP、ハサップ）制度の導入がすべての食品事業者において義務化された。食事を提供する旅館・ホテル業もその対象であり、現在、同業界向けのHACCP導入のための手引書¹⁰⁾が作成されている。民泊新法に基づき運営を行っている民泊施設もHACCP方式を取り入れた一般衛生管理の徹底が必要となることが想定される。一方、農家民泊や漁家民泊では食事作りも体験作業の一環としており、法律による規制の対象外となっているが、衛生管理の手法としてHACCP方式を取り入れることは、安心安全な民泊運営のためにも重要であり、喫緊の課題である。

1-2. 研究の方向性

民泊に関する衛生管理の研究は、家屋や清掃などに関する報告例はみられる¹¹⁾が、農家民泊や漁家民泊施設における食品や人的な衛生管理に係る先行研究はなく、それら衛生管理に関する指導書や手引きもほとんど存在しない。これらの現状を踏まえ、漁家民泊が将来的にHACCP方式を取り入れた衛生管理を実践していくために、今回我々は、漁家民泊の衛生管理に関する現状の把握と改善点等の洗い出しを行うこととした。衛生管理の仕組み作りや改善方法の手段を民泊に携わる事業者や従

*1 生活科学科食物栄養学専攻、*2 岩手県立大学研究・地域連携本部

事者一人一人が理解した上で実践し、最終的には衛生管理の作業内容等を HACCP 方式に基づいた記録に残す習慣が身につくことを本研究の最終目標として以下の介入調査および指導を行った。本報告は、現状把握の第一段階として、食品衛生の基礎となる手洗いを中心とした指導およびアンケート調査結果の内容をまとめたものである。

2. 介入指導

2-1. 安全講習会への参画と講義の実施

民泊で旅行者を受け入れる家庭には、岩手県の指針により年に1回、管理団体が主催する安全管理講習会を受けることが義務付けられている。対象地域の民泊を管理しているマルゴト企画では春(4月)と秋(9月)に講習会を実施している。本講習会において、マニュアルを配布し(図1)、宿泊客を受け入れる際の諸注意などを説明している。衛生管理にかかわる部分として、寝具の用意や、調理の際の注意点、食中毒に関することは述べられるが、簡易なものであった。そこで、我々が講師となり、「手洗いに関すること」として、手洗いをする意味、正しい手の洗い方などをDVDやスライドを用いて説明した。(4、9月各2回ずつ実施)



図1. 安全講習会で配布されるマニュアル



図2 配布したリーフレット(出典サラヤ株式会社)¹²⁾

2-2. リーフレットの配布

前述の講習会の際に、「正しい手洗いの仕方」を図説したラミネート版のリーフレット¹²⁾(図2左)を配布し、洗面所などへ置いてもらい、手洗いを常に意識するよう指導した。また、6月には夏場に発生しやすい食中毒予防に関するリーフレット¹²⁾(図2右)を管理団体が各家庭を戸別訪問する際に配布して注意を喚起した。

2-3. アンケート調査

対象者は民泊を実施している家庭の者とし、安全講習会参加者にはその場で回答してもらい、講習会終了後に回収した。また、不参加家庭には管理団体が自宅を訪問した際に手渡しで配布してもらい、後日回収も依頼した。設問は、「属性」、「民泊の運営」、「手洗いに関する項目」、「接客前のチェック」、「その他」とした。講習会参加者(4回開催、計34名)および戸別配布した家庭からの回収(7名分回収、配布数は不明)によって、41名分の回答が得られた。うち1名は記入不足であったため除外し、40名を対象者として集計した。統計解析には、IBM SPSS Statistics version 25を用いてカイ二乗検定を行い、有意水準は危険率10%未満($P < 0.1$)とした。

3. 結果および考察

3-1. 講習会について

本来であれば、民泊を行うすべての家庭に参加が義務付けられている講習会であるが、我々が参加した講習会の参加人数はいずれも5~10名と、参加者は少なかった(民泊受け入れ予定家庭数の2割程度)。よって講習会への参加を促したり、参加できない場合の対応策なども検討する必要性を感じた。

3-2. アンケート

1) 対象者の属性

対象者の属性を表2に示した。年代別で見ると、60代以上が82.5%と8割を超え、高齢者による運営の実態が判明した。

表2. 対象者の属性

	全体 (n=40)	男性 (n=6)	女性 (n=34)
	名 (%)	名	名
30代	1 (2.5)	0	1
40代	0 (0.0)	0	0
50代	2 (5.0)	1	1
60代	16 (40.0)	1	15
70代以上	17 (42.5)	4	13
無回答	4 (10.0)	0	4

民泊の運営に携わっている人についての回答結果を表3に示した。子供が運営に携わっていると回答した者は3名(8.1%)と1割未満であり、多くは単独または夫婦のみで運営していることが判明した。対象者の年齢の結果と併せて考えると、民泊の長期的な運営の難しさが窺えた。

表3 民泊の運営に携わる者(複数回答あり)

	名	%
回答者本人	37	100.0
配偶者	15	40.5
子供	3	8.1
無回答	3	—

(%の数値は無回答を除いた割合)

2) 手洗いについて

2-1) 手洗いの知識

「正しい手洗いの仕方を習ったことがありますか」に対する回答結果を表4に示した。「ある」と回答した者の割合は65.0%であった。さらに、年代で比較した結果を図4に示した。30~60代では69.6%、70代以上は60.6%が「習ったことがある」と回答した。岩織らの報告¹³⁾において、手洗いの仕方を知っているとは回答した成人は57.8%、高齢者(65歳以上)は43.6%であった。年齢構成の区切りに違いはあるが、本研究の対象者は正しい手洗いの習った経験が多い様子が窺えた。

表4 正しい手洗いの仕方を習ったことがあるか

	ある		ない	
	名	%	名	%
全体	26	65.0	14	35.0

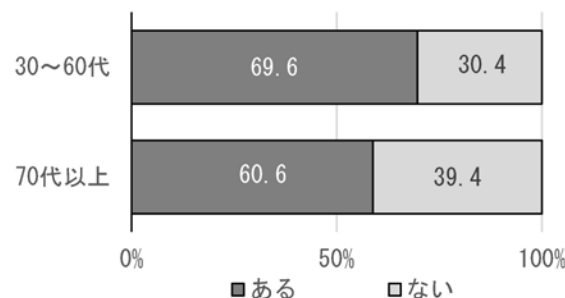


図4 正しい手洗いの仕方を習ったことがあるか(年代別比較)

2-2) 手洗いの回数

1日の手洗いの回数についての回答結果を表5に示した。7~9回が最も多く、14名(36.8%)だった。男性よりも女性のほうが手洗いの回数が多い傾向がみられた。消費者庁の調査結果¹⁴⁾では、1日の手洗いの回数が10回以上とした者は32.5%であり、本調査結果の31.6%とほぼ同程度であった。一方、男性で手洗い回数が3回以下の者は2名(33.3%)だった。手洗い白書2012の調査結果¹⁵⁾をみると、男性の方が手洗いの回数が少なく、1日3回以下と回答した者が20%存在した。本研究では男性の対象者が少ないため、信頼性が高いとはいえないが、全国的な調査と同様の傾向がみられた。女性は調理などを行うため、手洗い回数が増えることが考えられた。

表5 1日の手洗いの回数

	全体 (n=40)		男性 (n=6)		女性 (n=34)	
	名	(%)	名		名	
0~3回	4	(10.8)	2		2	
4~6回	7	(18.9)	3		4	
7~9回	14	(37.8)	1		13	
10回以上	12	(32.4)	0		12	
無回答	3	-	0		3	

(%の数値は無回答を除いた割合)

手洗いの回数について、年代で比較した結果を図5に示した。若い世代のほうが手洗いの回数が多い傾向がみられた(P=0.09)。次項の日常での手を洗う場面における実施割合の違いが影響している可能性が考えられた。

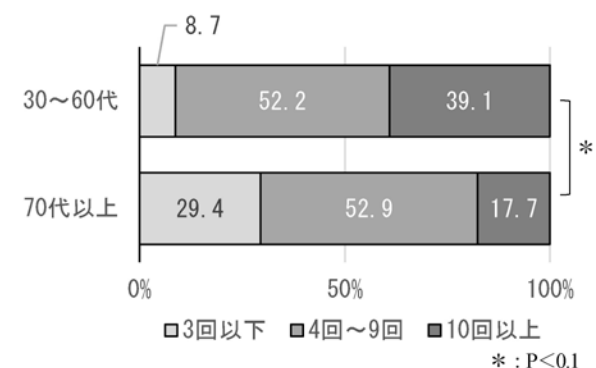


図5 1日の手洗いの回数(年代による比較)

2-3) 手洗いの場面

日常生活における手洗いを行う場面について、全体と年代別に分けた回答結果を図6に示した。トイレ後の手洗いは全員が実施していた。岩織らの調査¹³⁾や、手洗い白書2012¹⁴⁾におけるトイレ後の手洗いの実施率は80~90%であり、本対象者のトイレ後の手洗い実施率が高い

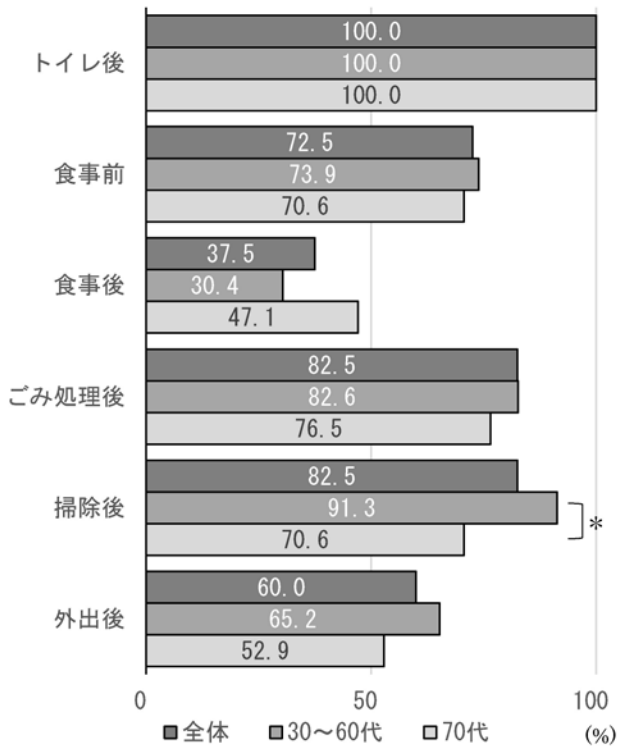


図6 日常生活における手洗いの場面

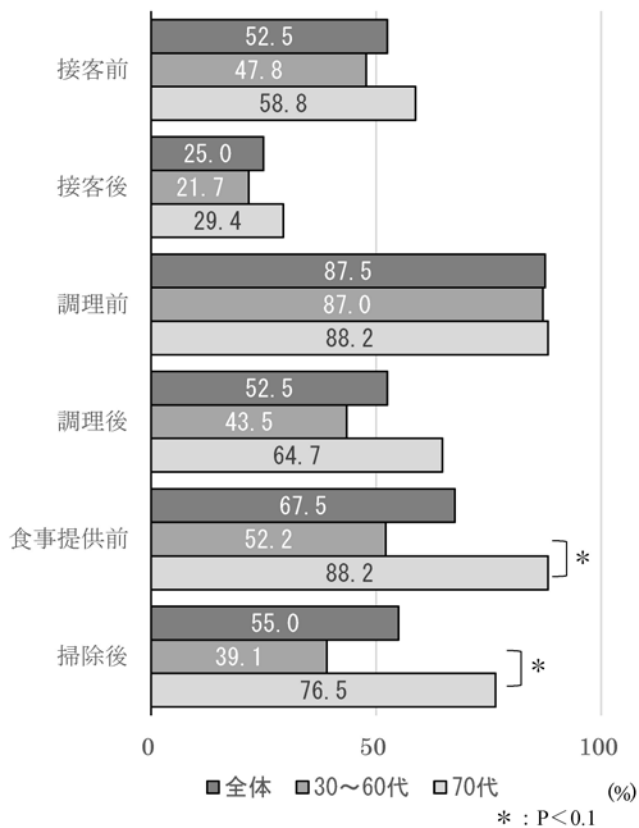


図7 接客時における手洗いの場面

ことが判明した。全体での結果では、ごみ処理や掃除後の手洗いの実施率も8割を超え、高い実施率であった。とくに掃除後に手を洗う割合は30~60代で91.3%と高い傾向がみられた (P=0.09)。また、ごみ処理後や外出後で30~60代の実施率が高い様子が窺えたため、前項の手洗いの回数にも影響している可能性が推察された。一方全体でみると、食事の前の実施率は72.5%、外出後60.0%であったため、感染症等予防のためには食事前、外出後の手洗いも重要であると指導する必要性を認識した。

次に、接客時(民泊利用者受け入れ時)における手洗いをを行う場面について、全体と年代別に分けた回答結果を図7に示した。全体でみると、調理前(87.5%)や食事提供前(67.5%)など、食品を取り扱う場面で手洗いを行っている様子が窺えた。また、接客前も半数を超えており(52.5%)、きれいな手でおもてなしをする、という心かけの表れだと考えられる。年代別の比較では、食事提供前と掃除後の手洗いが、70代の実施率が高かった(いずれもP=0.02)。

2-4) 手洗いの方法

手洗いの具体的な方法として、配布した手洗いリーフレットの情報提供先であるサラヤ株式会社が勧める衛生的な手洗いの手順¹⁰⁾によると、「石けん液を使う」「ペーパータオルで拭く」「アルコール消毒を行う」の3点があげられている。そこで石けんの種類、タオルの種類、アルコール消毒の実施について訊ねた。手洗い時に用いる石けんの種類についての回答結果を手洗い学習経験のあり群・なし群に分けて図8に示した。両群とも液体せっけんの利用率が高かった(あり群68.8%、なし群63.6%)。その他では食器用洗剤という回答がみられた。手洗い白書2012¹⁵⁾の結果をみると、液体石けんの利用率は64.4%であった。本調査の対象者も同程度の割合であり、全国的な調査と同様な傾向であると判明した。

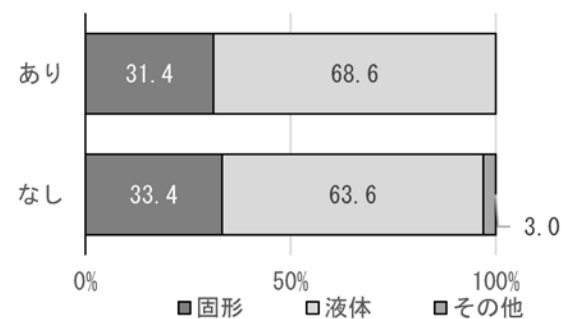


図8 手洗い時の石けんの種類

手洗い後に何で手を拭くか、についての回答結果を手洗い学習経験のあり群・なし群に分けて図9に示した。

布製のタオルで手を拭く、との回答がいずれの群も多かった（あり群 62.5%、なし群 77.7%）。一方、ペーパータオルを利用している者については、いずれも半数以下であった。衛生的な手洗いの手法として、ペーパータオルの利用を指導する必要性が考えられた。

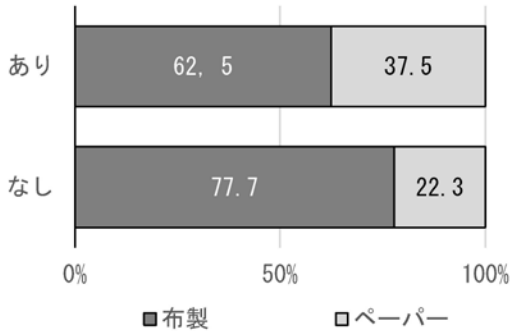


図9 手洗い後のタオルの種類

手洗い後にアルコール消毒を行っているかについての回答結果を学習経験のあり群・なし群に分けて図10に示した。アルコール消毒の実施率はあり群 15.4%、なし群 15.3%と両群とも2割を下回った。岩織らの調査結果¹⁴⁾において、擦式手指消毒剤の使用率は12.2%であった。この調査結果は手洗い後に限ったものではなかったため単純比較はできないが、ほぼ同程度であった。感染症等予防のためにも手洗い後のアルコール消毒は重要であり、実施する習慣を身につけてもらうための指導が必要であると考えた。

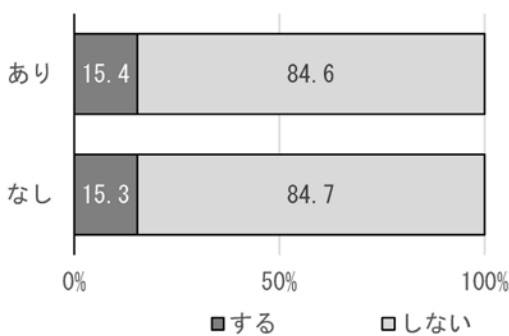


図10 アルコール消毒の実施

3) 接客前の体調チェック

民泊は自宅に宿泊者を迎え入れるため、受け入れる側の体調管理も重要となる。そこで、接客前の体調チェックの実施についての回答結果を年代別に分けて図11に示した。各群の実施率は30～60代が54.5%、70代以上が43.7%で、どちらも半数程度の実施率であった。体調チェックはHACCPに基づいた衛生管理を行う際には確認項目として挙げられている項目であるため、民泊受け入れ時には実施するように促したい。

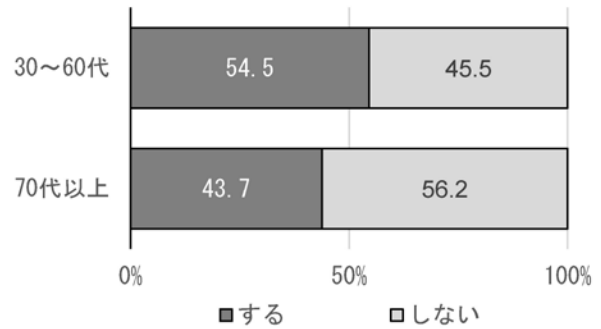


図11 接客時の体調チェック

体調チェックで実施している項目についての回答結果を図12に示した。「家族の健康」が最も高く73.7%であった。自宅を宿泊先として提供するため、家族の健康に気を配っている可能性が考えられた。次いで「下痢」63.2%、「発熱」52.6%であった。自身の体調が万全でなければ、接客を行うのが難しいため気にかけている割合が高いと考えられた。

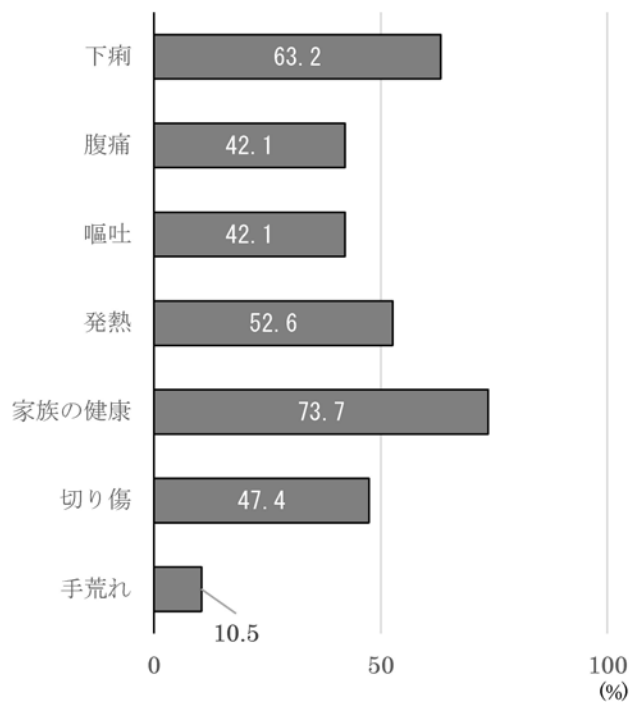


図12 体調チェックの項目

4) 衛生管理に関する知識

HACCPについて知っているかについての年代別の回答結果を図13に示した。あると回答した割合は、30～60代が47.6%、70代以上が13.3%で、30～60代が有意に高かった (P=0.03)。全国消費者団体連絡会の調査¹⁷⁾での認知度は45.1%であり、30～60代では同程度であった。一方、聞いたことがあると回答した者に、内容について知っているかと訊ねたところ、知っていると回答

した割合は16.6%にとどまった。前述の調査¹⁷⁾でも内容まで知っているとは回答した割合は20.9%であった今後HACCP方式に基づいた衛生管理を実施していくためにもHACCPについての講義を実施したいと考えている。

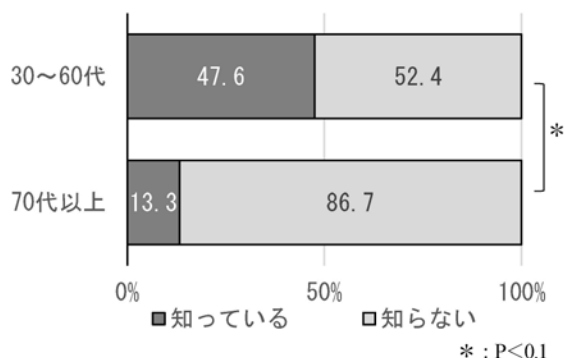


図13 HACCPの認知度

4. まとめ

民泊における衛生管理の手法を整備していくため、現状把握の第一段階として、食品衛生の基礎となる手洗いを中心とした指導およびアンケート調査をしたところ、手洗いについては「正しい手洗いの仕方を知っている」と回答した者は65.0%であったが、実際に行っている手洗いの方法では不完全な部分が見られた。講義で正しい手洗いの仕方をレクチャーし、リーフレットを配布したので、事後アンケートを実施し、改善されているかを確認する必要がある。また、手の細菌の状態を可視化できるパームスタンプチェックなどを利用した指導も取り入れたいと考えている。

今後は管理団体と連携を密にし、講習会の開催や個々の民泊家庭における衛生管理の改善に関する相談等に対応していきたい。

謝辞

アンケート調査にご協力して頂いた皆様、仲介役を担って頂いたマルゴト企画様およびSET様に深く御礼を申し上げます。

なお本研究は全学競争研究費より資金を受けた研究として実施しました。

参考文献

- 1) 民泊の教科書 HP
<https://minpaku.yokozeki.net/about-minpaku/>
- 2) 農泊を中心とした都市と農山漁村の共生・対流（農林水産省 HP）
<http://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/170203.html>
- 3) 都市と農山漁村の交流（グリーンツーリズムなど）（岩手県庁 HP）

- <https://www.pref.iwate.jp/sangyoukouyou/nougyou/kouryuu/1007765.html>
- 4) 一般社団法人マルゴト陸前高田 HP
<http://marugoto-rikuzentakata.com/>
- 5) NPO 法人 SET HP
<https://set-hirota.com/>
- 6) 住宅宿泊事業法（民泊新法）
https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0500/detail?lawId=429AC0000000065
- 7) 食品衛生法
https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0500/detail?lawId=322AC0000000233
- 8) 農林漁家への民泊に係る取扱指針（岩手県農林水産部）（岩手県庁 HP）
https://www.pref.iwate.jp/_res/projects/default_project/_page/_001/007/765/minnpakutoriatukaisisinn.pdf
- 9) 食品衛生法等の一部を改正する法律（平成30年6月13日公布）の概要
<https://www.mhlw.go.jp/content/11131500/000345946.pdf>
- 10) HACCPの考え方を取り入れた衛生管理のための手引書
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000179028_00003.html
- 11) 阪東美智子：民泊における環境衛生面に関する課題。生活と環境.64(7), 12-17 (2019)
- 12) サラヤ HP 各種リーフレット
<https://pro.saraya.com/support/catalog-poster/>
- 13) 岩織美保子, 小池久美子, 三浦みや子：八戸地域における住民の手洗い意識に関する実態調査。八戸短期大学研究紀要.34,141-148 (2011)
- 14) 消費者庁 HP
https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/release/pdf/151112kouhyou_1.pdf
- 15) 手洗い白書2012
<https://handwashing.jp/dl/hakusyo.pdf>
- 16) サラヤ HP 「出来てますか？せいけつ手洗い」
<https://family.saraya.com/tearai/index.html>
- 17) HACCP アンケートについて(全国消費者団体連会)
<http://www.shodanren.gr.jp/Annai/363.htm>

※各HPの最終アクセス日 2019年11月30日